様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３３３０４
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｈ０６７４５

研究課題名（和文）欧文資料による近代中国語文法研究 ～文法学の中国への伝播

研究課題名（英文）Research on the Modern Chinese Grammar though Western Materials

研究代表者
伊伏　啓子（IBUSHI, KEIKO）

北陸大学・公私立大学の部局等・講師

研究者番号：４０７５９８４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は近代の西洋人によって書かれた中国語文法書と中国語教材を資料とし、当時の西洋人が行った中国語文法研究について考察したものである。
　まず来華宣教師T.P.クロフォードの中国語著作を整理し、彼の中国語著作は官話で書かれたものと上海語を表記する特殊な符号を用いて書かれたものの二つに分けられることを述べた。文法研究に関しては、「受動態に関する記述」を整理し、中国語の特徴である無標被動文に関する記述があることを指摘した。また「量詞」に関する記述を考察し、冠詞の概念を用いて中国語の量詞を用いたフレーズを説明する記述があることを指摘した。当時の西洋人が量詞の機能を多面的に捉えていたことが確認された。

研究成果の概要（英文）：　It has taken me two years to research Chinese grammar books and Chinese teaching materials written by modern Westerner and considered about Chinese grammatical study a westerner in those days.
　One is concerned with Chinese study of missionary T. P. Crawford. After his Chinese book was analyzed, I found out that these books are divisible completely. One was written by a mandarin, and another was written using the special sign which transcribes Shanghai dialect.　Another is a grammatical study. I described the "Passive voice" and I pointed out that there is description about "unmarked passive sentences" which is the feature of Chinese. Also, I looked at the description about " Chinese classifier" and pointed out that there is description which explains " Chinese classifier" using a concept of an article. It was confirmed that the Westerners at the time captured the function of " Chinese classifier", which is multilateral.

研究分野：言語学

キーワード：中国語文法　欧文資料　来華宣教師

１．研究開始当初の背景

キリスト教伝来のために来華した宣教師たちは、布教活動のために中国語を習得することが不可欠であった。中国語を習得し、聖書を中国語に翻訳し、中国にキリスト教を広めることが彼ら の仕事であった。その過程で、多数の中国語教材、文法書、辞書が作られた。これらは後にヨーロッパに送られ、一部の学者はこれをもとに研究して中国学者となった。19 世紀に入ると宣教師 のほかに、外交官らも熱心に中国語を学び、多くの著作を残している。中西文化交流を軸とした 漢学研究が盛んになった現在、このような欧文資料が次々と発掘され、資料の閲覧も容易になった。その結果、これら欧文資料を用いて中国語学研究のこれまでの欠落部分を補完する研究が端 緒についた。中国語音韻研究史や語彙史においては大きな成果が生まれた。本研究は 17 世紀から 20 世紀初頭にかけて西洋人によって作られた中国語文法書を分析し、1.「西洋の文法学 (Grammar)の知識と枠組みがどのように中国語に当てはめられ、どのような結果が得られたのか。」 2.「近代の西洋人が捉えた中国語とはいったいどのような言語であったのか」について明らかにしたい。東アジアの国々は近代化の過程に於いて、西洋の知識を学び、変化した。言語研究も例外ではない。「国語文法」を作るために言語学の知識が西洋から輸入された。「馬氏文通」(1898) に始まる新しい中国語研究は、中国人が外国語を学び、欧米や日本に留学し、新しい知識を得て、これまでの伝統的なものではない新しい国語研究を始めた。それ以前の西洋人による中国語研究は、これまで左程注目されなかったが、本研究を通して近代西洋人による中国語研究の重要性を提唱し、現代の中国語文法研究に有用な資料を提供したい。

２．研究の目的

本研究は 17 世紀から 20 世紀初頭にかけて、欧米の来華宣教師や中国学者、外交官らによって行なわれた中国語の学習と研究に注目し、彼らの書き残した数多くの中国語学習教材と文法書を 調査・整理し、近代西洋人による中国語研究を明らかにすることを目的としている。近代西洋人による中国語の学習と研究は、西洋言語と中国語が比較対照された過程であり、文法学(Grammar) の知識が中国に伝播する過程でもある。⑴近代西洋人によってもたらされた文法学の知識はどのように中国語に用いられ、中国語が分析されたのか。⑵近代西洋人が捉えた中国語の特徴とは何か。資料の分析を通して以上二点の考察を試みる。近代西洋人による中国語研究を、「馬氏文通」(1898)に始まる中国人による新しい中国語文法研究の前段階と位置づけ、中国語文法研究史の一端を明らかにしたい。

３．研究の方法

本研究は 17 世紀から 20 世紀初頭にかけて西洋人によって書かれた中国語文法書と中国語教材を資料とし、⑴「受動態に関する記述」、⑵「量詞に関する記述」の二つのテーマについて 全ての資料を調査分析し、西洋人の研究成果を明らかにする。そのためにまず、欧文資料のリストを作成し、更に著書の言語や著者の母国語や宗派等の情報を加えて整理する。次に、各ヨーロッパ言語における⑴と⑵の内容、そして当時の欧米の文法研究を調査する。最後に欧文資料の⑴と⑵の内容を詳細に調査分析し、比較対照しながら西洋人の中国語研究の成果を明らかにする。ヨーロッパで資料調査を進め、新しい資料を発掘し欧文資料のリストを再整理する。研究成果は国内外の学会やシンポジウムで発表し、論文を執筆し、社会へ発信する。

４．研究成果

2016 年度は、アメリカ人来華宣教師 T.P. クロフォードの中国語研究と 19 世紀の欧文

資料を用いた中国語の被動文研究を行った。

アメリカ人来華宣教師 T.P.クロフォードの中国語研究では、これまで行って来た資料調査の内容を整理し、彼が中国で出版した多数の書籍を一覧にまとめ、分析を行った。これらの書籍は、官話で書かれたものと上海語で書かれたものの二つに大別することができる。上海語で書かれた書籍は彼が独自に創案した符号を用いて著されており、また、その特殊な符号は彼の妻や友人らによって使用され、同時期に複数の符号を用いた上海語書籍が出版されていることがわかった。これらは彼が上海に滞在していた、宣教活動初期に書かれたものである。官話で書かれた書籍はのちに山東省に活動の場を移し、宣教活動の傍ら、教会学校で教育を行う際、教科書として作られた書籍であった。この内容は『関西大学中国文学会紀要』37 号（2016 年 3 月）に掲載した。

2015 年 11 月には日本中国語学会全国大会において「早期西洋人中国語文法書に見られる受動態について」の題目で口頭発表を行った。19 世紀欧米人によって書かれた中国語文法書に見られる受動態の記述を整理し、当時の西洋人がどのように中国語の被動文を説明していたのか、特にマーカーのない自然被動文に関する説明を行った。欧文資料を用いた中国語の被動文研究の可能性を示した。

2016 年度の資料調査は、まず 2015 年 9 月 10 日～12 日にバーゼル伝道会古文書館（スイス）の調査を行った。閩南語の辞書等を目録から確認した。また、2016 年 3 月 13 日～20 日に SOAS 図書館（イギリス）・ライデン大学図書館（オランダ）の調査を行った。SOAS では James Summers の著作をコピーすることができた。ライデン大学図書館では東洋専門のライブラリアンの案内で、ライデン大学が所蔵する貴重な漢籍や近代西洋人が編纂した中国語辞書等を見せていただいた。また、ライデン大学図書館中国関係目録（Catalogue of Chinese and SINO-WESTARN manuscripts.）を手に入れた。

2017 年度は早期欧文資料（主に 19 世紀に西洋人によって編纂された中国語文法書と教科書）に見られる中国語の量詞の機能について、拙論 2012 で整理した内容を見直し、冠詞のカテゴリーで説明される量詞の機能について整理した。Grammar of the Chinese Language. 1864 （W.Lobscheid）では品詞の一つとして冠詞を設定し、このカテゴリーの中で定冠詞と不定冠詞を説明する。(「中国語の不定冠詞は数詞「一」によって表現され、いつもそのあとに量詞が続く」）他の著作には冠詞の品詞分類は見られないが、冠詞の概念を中国語に当てはめ、量詞の機能を説明するものが見られた（Rémusat1822, Gützlaff1842 等 6 冊の著作）。中には数詞「一」は省略され量詞のみで不定冠詞を表す説明もある。当時の中国語教材では、西洋文法において定冠詞とされるものは「這個，那個，其」、不定冠詞とされるものは「一個，個，一+量詞，有」によって表現されると考えていることがわかった。2017 年度の資料調査は、まず 2016 年 9 月 14 日～17 日の間に、バチカン図書館・イエズス会公文書館・国立ローマ文書館調査（イタリア・ローマ）の調査を行った。また、2017 年 2 月 14 日、ブダペストローラン大学の会議に参加した際、ウィーンに足を伸ばして、オーストリア国立図書館（ウィーン）の調査を行った。ここの古文書館ではヴァロの著作（Arte de la lengua mandarina.）の本物を見ることができた。本書の中には学習者が書いたと見られるメモが残っており、その写真を撮ることができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

(1) 伊伏啓子、「来華宣教師クロフォード（T.P. Crawford.1821-1902）の中国語著作につい

て」、『関西大学中国文学会紀要』、37 号、査読無、2016 年 3 月

〔学会発表〕（計 5 件）

(1) 伊伏啓子、「近代西方漢語教材裡的被動語態」東アジア文化交渉学会第 7 回国際学術大会、2015 年 5 月 9 日～10 日、神奈川県開成町

(2) 伊伏啓子、「早期西洋人中国語文法書に見られる受動態について」日本中国語学会第 65 回全国大会、2015 年 10 月 31 日～11 月 1 日、東京大学

(3) 伊伏啓子、「19 世纪汉语注音符号初探–关于高第丕的注音符号」　東アジア文化交渉学会第 6 回国際学術大会、2016 年 5 月 6 日～8 日、関西大学

(4) 伊伏啓子、「早起西方人汉语教材里的量词-以一个为例」　汉语教材史国际学术研讨会–世界汉语教育史研究学会第八届年会、2016 年 11 月 5 日～6 日、中国 中山大学

(5) 伊伏啓子、「早期欧文資料に見られる中国語量詞の機能」　東西学術研究所 研究例会（言語接触研究班）、2017 年 1 月 21 日、関西大学

６．研究組織
(1)研究代表者
伊伏　啓子（IBUSHI KEIKO）
北陸大学・未来創造学部・講師
研究者番号：40759841

(2)研究分担者
該当者なし